

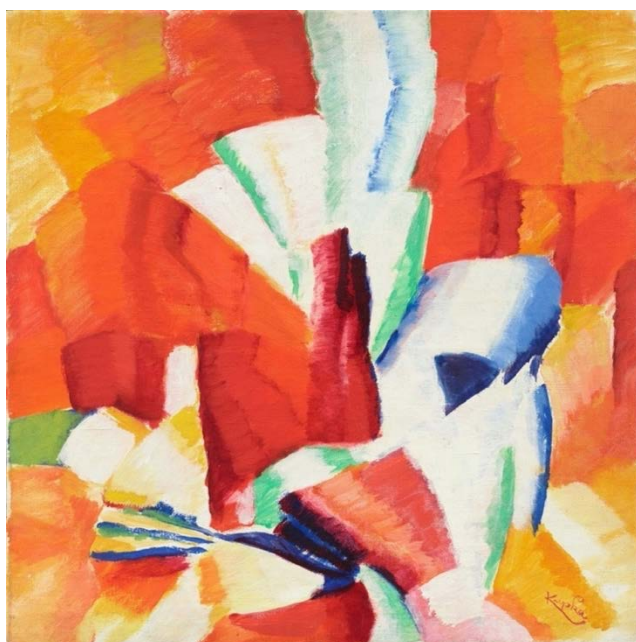
報道各位

2023年2月16日  
公益財団法人石橋財団 アーティゾン美術館

# ABSTRACTION

抽象絵画の覚醒と展開 セザンヌ、フォーヴィスム、キュビズムから現代へ

2023年6月3日 [土] - 8月20日 [日]



フランティセック・クブカ《赤い背景のエチュード》  
1919年頃 石橋財団アーティゾン美術館【新収蔵作品】



ヴァシリー・カンディンスキー《「E.R.キャンベルのための壁画No.4」の習作（カーニバル・冬）》1914年  
宮城県美術館

公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館（館長 石橋 寛）は、「ABSTRACTION 抽象絵画の覚醒と展開 セザンヌ、フォーヴィスム、キュビズムから現代へ」を開催いたします。

19世紀末から第一次世界大戦が勃発するまでの間、フランスが平和と豊かさを享受することが出来たベル・エポックの時代、芸術を生み出す活気と自由な雰囲気になり溢れる中、フォーヴィスム、キュビズムなどの新しい美術が芽吹いて花咲き、やがて表現の到達点のひとつとして抽象絵画が目覚めました。その後の抽象絵画の展開は、20世紀の絵画表現を牽引し、その潮流は同時期の日本にも及びました。

この展覧会は、印象派を起点として、世紀初頭の革新的な絵画運動を経て抽象絵画が生まれ、2つの大戦を経てさらに展開していく様子をおおよそ1960年代まで、フランスを中心としたヨーロッパ、アメリカ、そして日本の動向を中心に展覧するものです。

本展では、石橋財団コレクションから新収蔵作品\*95点を含む約150点、国内外の美術館、個人コレクション等から約100点、あわせて約250点の作品を、アーティゾン美術館の全展示室を使ってご紹介いたします。

\*新収蔵作品・・・当館の前身であるブリヂストン美術館が休館した2015年以降に収蔵された作品を指す。

## 【本展の見どころ】

### 1. 抽象絵画の歴史を展観する大規模展

19世紀中頃に写真技術が発明された直後に印象派が誕生し、それを継ぐ絵画の革新は20世紀へと引き継がれます。20世紀美術の主要な動向である抽象絵画の歴史を、その発生からおおよそ1960年代までの展開に沿って、フランスを中心としたヨーロッパ、アメリカ、日本の作品約250点で展観します。アーティゾン美術館の全展示室を使った大規模な展覧会です。

### 2. アーティゾン美術館の近年の新収蔵作品 95 点を一挙公開

アーティゾン美術館は、抽象絵画の収集に力を入れてきました。抽象絵画を創始した画家カンディンスキー、クレー、ドローネー、クプカ、オキーフらの初期作品をはじめとする、新収蔵作品を一堂に公開します。また、抽象絵画が生まれるきっかけとなった20世紀初頭のフォーヴィスムに関する新収蔵作品5点も出品します。

### 3. 国内外の美術館、個人コレクションからの作品が集結

海外からは、ポンピドゥー・センター、フィリップス・コレクションなどの美術館、そして個人コレクションから、初公開作品を含む計30点余りの作品が来日します。国内からは、国公立、私立の美術館、個人コレクションからの重要作品約70点が出品されます。

### 4. アルトゥング、スーラージュ、ザオ・ウーキーの後期作品を特集展示

第二次世界大戦直後のフランス抽象絵画の興隆を担ったアンス・アルトゥング、ピエール・スーラージュ、ザオ・ウーキーといった巨匠たちは、その創作意欲を途切れさせることなく、生涯にわたって意欲的な活動を続けました。とりわけ、それぞれ没する直前まで活力漲る大作を生み出したことはあまり知られていません。巨匠の晩年に焦点を当てた特別なセクションでそれらの作品をご紹介します。

### 5. 現代作家の作品を特集展示

20世紀に華やかに咲き誇った抽象絵画は、現代にどのように受け継がれ、これから展開していくのでしょうか。伝統を受け継ぎながらも、あらたな表現に挑む7人の作家を本展最後の特別なセクションでご紹介します。リタ・アッカーマン、鍵岡リグレ、アンヌ、<sup>ろっせいこう</sup>斐正綱、津上みゆき、柴田敏雄、高島依子、横溝美由紀の新作を中心とした作品で構成されます。

## 【展覧会構成】 \* ( ) 内は主な出品作家

### 1. 抽象芸術の源泉

(ポール・セザンヌ、エドゥアール・マネ、フィンセント・ファン・ゴッホ、ポール・ゴーガン、オディロン・ルドン、クロード・モネ、他)

### 2. フォーヴィスムとキュビスム

(アンリ・マ蒂斯、アンドレ・ドラク、モーリス・ド・ヴラマンク、ラウル・デュフィ、パブロ・ピカソ、ジョルジュ・ブラック、ジャン・メッツァンジェ、フェルナン・レジェ、他)

### 3. オルフィスム、未来派、青騎士、バウハウス、デ・スティール、アプストラクシオン=クレアシオン

(ロベール・ドローネー、フランティセック・クプカ、ル・コルビュジエ、ヴァシリー・カンディンスキー、パウル・クレー、ピート・モンドリアン、コンスタンティン・ブランクーシ、ジョージア・オキーフ、他)

#### 4. 日本における抽象絵画の萌芽と展開

(恩地孝四郎、萬鉄五郎、古賀春江、長谷川三郎、岡本太郎、他)

#### 5. 熱い抽象と叙情的抽象

(ヴォルス、ジャン・フォートリエ、ジョルジュ・マチュー、モーリス・エステーヴ、マリア=エレナ・ヴィエラ・ダ・シルヴァ、アンス・アルトゥング、ピエール・スーラージュ、ザオ・ウーキー、堂本尚郎、菅井汲、他)

#### 6. トランス・アトランティック・ピエール・マティスとその周辺

(ジャン・デュビュッフェ、ジョアン・ミロ、マルセル・デュシャン、他)

#### 7. 抽象表現主義

(アーシル・ゴーキー、ハンス・ホフマン、ウィレム・デ・クーニング、ジャクソン・ポロック、マーク・ロスコ、サム・フランシス、アド・ラインハート、アドルフ・ゴットリーブ、エレイン・デ・クーニング、ヘレン・フランケンサラー、リー・クラズナー、ジョアン・ミッチェル、イサム・ノグチ、他)

#### 8. 戦後日本の抽象絵画の展開 (1960年代まで)

(山口長男、オノサト・トシノブ、草間彌生、桂ゆき、斎藤義重、川端実、杉全直、猪熊弦一郎、岡田謙三、瑛九、他)

#### 9. 具体美術協会

(吉原治良、白髪一雄、田中敦子、金山明、村上三郎、元永定正、正延正俊、他)

#### 10. 瀧口修造と実験工房

(瀧口修造、山口勝弘、福島秀子、北代省三)

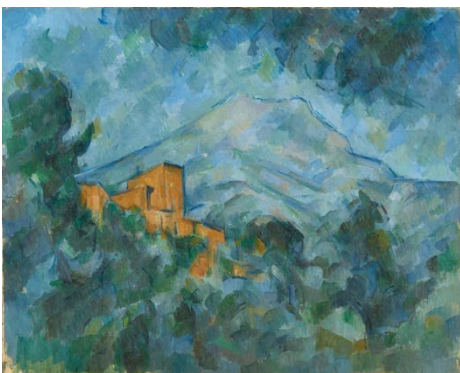
#### 11. 戦後抽象作家のその後—アルトゥング、スーラージュ、ザオ・ウーキー

(アンス・アルトゥング、ピエール・スーラージュ、ザオ・ウーキー)

#### 12. 現代の作家たち

(リタ・アッカーマン、鍵岡リグレ アンヌ、<sup>ろうせいこう</sup>婁正綱、津上みゆき、柴田敏雄、高島依子、横溝美由紀)

### 【主な出品作品】



ポール・セザンヌ《サント=ヴィクトワール山とシャトー・ノワール》1904-06年頃 石橋財団アーティゾン美術館



アンドレ・ドラン《女の頭部》1905年頃 石橋財団アーティゾン美術館【新収蔵作品】



モーリス・ド・ヴラマンク《色彩のシンフォニー (花)》1905-06年頃 石橋財団アーティゾン美術館【新収蔵作品】





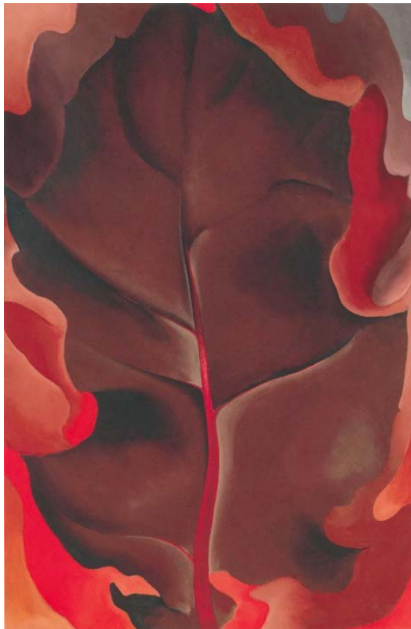
ロベール・ドローネー《街の窓》1912年  
石橋財団アーティゾン美術館【新収蔵作品】



フェルナン・レジェ《抽象的コンポジション》  
1919年 石橋財団アーティゾン美術館



古賀春江《円筒形の画像》1926年頃  
石橋財団アーティゾン美術館



ジョージア・オキーフ《オータム・リーフ  
II》1927年 石橋財団アーティゾン美術館  
【新収蔵作品】★  
© 2023 The Georgia O' Keeffe  
Foundation/ ARS, New York/ JASPAR,  
Tokyo C4125



ジャクソン・ポロック《無題（縦にされた台形  
のあるコンポジション）》1943年頃 個人蔵



ウィレム・デ・クーニング《一月》1947-  
48年 石橋財団アーティゾン美術館【新収  
蔵作品】★  
© 2023 The Willem de Kooning  
Foundation, New York/ ARS, New  
York/ JASPAR, Tokyo C4125

ジャン・デュビュッフェ《ピエール・マティスの  
暗い肖像》1947年 ポンピドゥー・センター、  
パリ 国立近代美術館／産業創造センター ★  
© ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo 2023  
C4125  
Photo ©Centre Pompidou, MNAM-CCI, Dist.  
RMN-Grand Palais / Philippe Migeat /  
distributed by AMF



福島秀子《MP》1950年 個人蔵  
(石橋財団アーティゾン美術館寄託)  
@Kazuo Fukushima

## 【開催概要】

展覧会名： ABSTRACTION 抽象絵画の覚醒と展開 セザンヌ、フォーヴィスム、キュビズムから現代へ  
\*展覧会タイトルを省略する場合は【ABSTRACTION 抽象絵画の覚醒と展開】とご記載ください。

主催： 公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館

会場： アーティゾン美術館 6・5・4階展示室

会期： 2023年6月3日[土]—8月20日[日]

開館時間： 10:00 — 18:00 (8月11日を除く金曜日は20:00まで) \*入館は閉館の30分前まで

休館日： 月曜日 (7月17日は開館)、7月18日

入館料 (税込)： 日時指定予約制 (2023年4月4日 [火] よりウェブ予約開始)

ウェブ予約チケット1,800円、当日チケット (窓口販売) 2,000円、学生無料 (要ウェブ予約)

\*ウェブ予約チケットが完売していない場合のみ、美術館窓口でも当日チケットを販売します。

\*中学生以下の方はウェブ予約不要です。

\*開催情報は予告なく変更となることがあります。

担当学芸員：新畑泰秀、島本英明

アーティゾン美術館 〒104-0031 東京都中央区京橋 1-7-2

Tel: 国内 050-5541-8600 海外 047-316-2772 (ハローダイヤル) [www.artizon.museum](http://www.artizon.museum)

アクセス：JR 東京駅 (八重洲中央口)、東京メトロ銀座線・京橋駅 (6番、7番出口)、東京メトロ・銀座線/東西線/都営浅草線・日本橋駅 (B1出口) から徒歩5分

## 【広報用図版】

1点のみ掲載の場合は1ページに掲載の図版よりどちらかをお選びください。

掲載時には必ずクレジットをご記載ください。また、文字載せやトリミングはご遠慮ください。

■ 図版は、下記サイトからダウンロードしていただけます。

広報用画像データのダウンロードはこちら

<https://www.artpr.jp/artizon/abstraction2023>



■ ★のついた3作品は著作権保護期間中です。ご利用については下記にご相談ください。

本プレスリリースについてのお問合せ先  
アーティゾン美術館 広報課 松浦・小川・宮武

\*一般の方のお問合せ先は050-5541-8600 (ハローダイヤル) です。

E-mail: [publicity@artizon.jp](mailto:publicity@artizon.jp)

TEL: 03-6263-0132 (広報課直通・誌面への掲載はご遠慮ください。)

〒104-0031 東京都中央区京橋 1-7-2